木村定三コレクションこけし目録

（作品解説）

カメイ美術館　青野　由美子

1　南部系　佐々木覚平

径8.7　高9.6
制作年不詳
底部に墨書
「南部系／九代目／覚平」
M1613-1

南部系のこけしを確立した一人と言われる与始郎を父に持つ覚平は、先祖の古作復元を精力的に行い多くの作品を残した。平成19年没・78歳

2　遠刈田系　作田隆

径7　高24
1958（昭和33）年頃
M1613-2
底部に墨書
「遠州国／作田隆／五十九才」

兄の作田栄利（師・佐藤吉郎平）を師とする隆は、素朴さと情味を兼ね備えた作品を残した。昭和51年没・77歳

3　遠刈田系　佐藤友晴

径11.3　高45.3
制作年不詳
M1613-3

大正５年３月15日宮城県遠刈田に生まれる。昭和21年31歳で没。父は、佐藤直助と共に遠刈田系の典型的なこけしを作ったと評される名工・松之進。兄は好秋。こけしの制作をするかたわら木地業の調査に励み、こけし工人としては稀有な存在であった。彼の手記は、『遠刈田新地青根の木地業とこけし』として出版され、今でも貴重な資料として残されている。このこけしはスタンダードな遠刈田系の形態（頭には手絡と呼ばれる放射状の赤い飾り、三日月形の目、割れ鼻、胴は細身で手書きの模様）を持ち制作されたものである。

4　遠刈田系　佐藤秀一

径10.5　高37.5
1941（昭和16）年
M1613-4
底部に墨書
「新地／佐藤秀一／昭和十六、八、十五」
朱文方印「光等卯賞」

大正３年６月21日宮城県遠刈田に生まれる。昭和19年31歳で戦死。父、直助は名工の名高く、その後に続く遠刈田のこけしに絶大な影響を与えたと言われている。秀一も、研究熱心な工人で、同輩の佐藤友晴と共に伝統を保持しながら新しい手法を加味した描彩の研究を続けたという。このこけしの胴には少々くびれが入り、そこにアクセントとなる帯と裾までの重ね菊が描かれて、華やかさと愛くるしさを同時に感じさせるこけしである。

5　山形系　小林吉三郎

径5.6　高18.5
1960（昭和35）年頃
M1613-5
胴部背面に墨書
「山形　小林吉三郎／七十四翁」

山形系こけしの祖である倉治を祖父に持ち、倉吉を父とし生を受け、また息子、孫へと今なお伝えられている。吉三郎の描彩は几帳面と表されるが、机の上に整然と木地を並べ、丁寧に描いていたと伝えられている。昭和46年没・85歳

6　遠刈田系　佐藤文助

径7.5　高27.5
1953（昭和28）年頃
M1613-6
底部に墨書「文助／五十三才」

玩具から難しい木地まで挽く腕のたつ工人だったという。年代ごとに「緊張感」「甘美」「華麗」などと表され、長きにわたり、変化に富む作品を残した。　昭和52年没・77歳

7　遠刈田系　佐藤丑蔵

径9.6　高36.6
1943（昭和18）年
M1613-7
底部に墨書（後補）
「岩手県／和賀郡清田村■天／小林木工場内／作／佐藤丑三／五五才／昭和十八年／二月廿一日」

大正期から昭和61年に97歳で亡くなるまで、生命力にあふれた、またバラエティ豊かなこけしを作り続けた。丑蔵は、生を受けた遠刈田を離れ、青根、山形の肘折、及位、岩手の湯田、盛岡を渡り歩き、後半は遠刈田に帰郷するという人生を歩んだ。各地の風土や様々な出会いを作品に封じ込めるように、丑蔵の作品は変化に富んでいる。木村コレクションの丑蔵は、昭和18年作のようであるが、この頃の作は、「胴がやや太くなり頭がやや丸みを持つ。表情も甘さが出て、笑い口のものが多い。」と『こけし辞典』で表現されている。胴模様は重ね菊と表される遠刈田系のこけしの代表的な模様である。

8　山形系　小林友次

径5.4　高16.4
制作年不詳
M1613-8
底部に墨書「小林友次作」

山形系こけしの祖、小林家の2代目、倉治の五男・吉太郎を師とする。その伝統を受け継ぎながら、太めの胴に五弁の花を重ねて描いた。昭和49年没・64歳

9　遠刈田系　佐藤武雄

径6.2　高21.6
1961（昭和36）年頃
M1613-9
胴部背面に墨書
「秋保温泉／佐藤武雄作／四十八才」

遠刈田系の伝統をくみながら、仙台の秋保という地で独特の作品を生みだした一人である、三蔵を父に持つ。描彩は達筆で巧み、甘美で優しい表情のものが多いと言われている。昭和48年没・60歳

参考　『こけし　美と系譜』鹿間時夫著　昭和41年
『こけし辞典』鹿間時夫監修　昭和46年
Kokeshi Wiki (インターネット上のこけし辞典、http://kokeshiwiki.com/)

凡　例

・本目録は、愛知県美術館所蔵「木村定三コレクション」の中から、こけしを掲載し、解説を付したものである。
・各作品名は、調査者の見解を勘案して決定した。
・各作品のデータは、掲載番号、作品名、寸法（cm）、制作年、コレクション番号、付帯情報の順に記載した。
・本目録は、カメイ美術館　青野由美子が執筆した。
・こけし調査は2014年度、愛知県美術館学芸員の副田一穂が担当し、中野悠の調査補助を受けた。

編集　愛知県美術館　副田一穂